

企画展
「乙女のふろく
大集合!!」展
2/28 まで!

少女雑誌の部屋から

開催中の『乙女のふろく大集合!!』展も残すところ1か月となりました。当館が所蔵しているふろくコレクションの中には、一般の方からお譲りいただいたものも数多く含まれています。捨てられずに長い間大切に保管されていたのだなと思うと、一つひとつがとてもかけがえのないもののように感じます。それらを多くの皆さまに見ていただく機会はこれからも作っていただけると考えております。

とはいえ、展示内容は企画展ごとに変化いたします。ぜひ、この期間中に一度ご覧くださいませ!



雑誌紹介 23

明治30年代～昭和40年代に発行された少女雑誌の中から主なものについてご紹介します

美しい十代 (学習研究社)

昭和34(1959)年12月号～
昭和43(1968)年10月号

学習研究社が、少女雑誌を卒業した次に読む雑誌がほしいとの要望に応える形で発行した十代のためのくらしの雑誌。学習雑誌『中学コース』、『高校コース』の姉妹雑誌として誕生した。服飾、美容、料理、小説、洋裁など、ジュニアの生活に関係するものを取り入れて編集され、芸能情報と純愛路線の恋愛記事なども多く扱われた。また、当時は無名に近かった作家・加納一朗、赤松光夫、中村八朗らを起用し、付録には読み切りの小説もつけられていた。昭和37年に連載を開始した漫画『小さな恋のものがたり』は、後に単行本化、映像化されるなどし、半世紀以上にわたって多くのファンを魅了し続けている。表紙には十朱幸代、和泉雅子、吉永小百合など若き映画スターたちが華を添えた。

少女雑誌を彩った挿絵画家たち 23

内藤 ルネ (ないとう るね) 1932-2007

愛知県岡崎市生まれ。本名は功^{いさお}。

昭和27(1952)年に上京し、ひまわり社に入社。『ひまわり』、『それいゆ』の編集を手伝いながら、小カットを描くようになる。昭和29(1954)年、『ジュニアそれいゆ』創刊と同時に主要メンバーとなり、イラスト・人形作品を掲載。その頃から昭和39年頃まで少女雑誌各誌の口絵や付録などを多数手掛けた。

1960年代はじめ頃から1980年代は、マスコット人形・食器・文房具などをデザイン、多数製品化されて人気を博した。はっきりした色合いと線画の元気な少女画は、以降の少女文化・イラストに大きな影響を与え、日本の「kawaii」文化の先駆けとなった。

昭和39(1964)年、『服装』(婦人生活社)に連載を開始、これは後続の『私の部屋』にひきつがれ、平成4(1992)年まで続いた。平成13(2001)年、静岡県修善寺に移り住み「内藤ルネ人形美術館」を開館。(現在は閉館)

少女雑誌の豆知識

～ 思い通じたファンレター ～

戦時下で中原淳一の絵に出逢い、強い衝撃を受けた内藤ルネ。戦後、16歳の時に書店で手に取った雑誌『ひまわり』(ひまわり社刊)で淳一の絵に再会し、改めてその美しい世界に感銘を受けました。それからというもの、毎日絵を描いて、手紙を添えて送り続けました。その思いがようやく通じ、淳一に誘われて東京神田の「ひまわり社」へ入社することになったのでした。イラストレーターとしてデビューを果たした当初のペンネームは内藤瑠根でした。